



21世紀の図書館

主な内容：21世紀に図書館はどうか？、書評『ケア学 越境するケアへ』、エッセイ「私と本」、新着図書紹介、電子ジャーナルについて

21世紀に図書館はどうか？

いよいよ21世紀になってしまった。どれほどの変化があるかと期待していた新世紀だが、いざなってみれば当たり前のことだがそれは20世紀の続きであった。

しかし、あと100年もすれば間違い無く私たちの生活は劇的な変化を遂げているだろう。その時、図書館はどうなっているだろうか？今回の原稿を書くにあたり『図書館雑誌』を大いに参考にした。以下の文章はそこに書かれてあることを含め、私なりに新世紀の図書館の在り方についてまとめたものである。

図書館界は20世紀にコンピュータ化の波に襲われて今は電子化の波に襲われている。資料をデジタル化することの利点は、検索機能が向上することであり、自分の見やすい状態に変換できることであり、貴重書や絶版本を気軽に公開できることであろう。つまり、今まで印刷物では出来なかったことが出来るようになるということである。このまま行けば21世紀には紙の本が無くなるのではないかという意見がある。しかし、印刷物の歴史は500年にも及び、人類の文明が始まって以来蓄積された英知のほとんどは、依然として印刷された「本」の中にあるから、まだ始まったばかりの電子出版のために紙の本が無くなるというようなことは無い、という意見もある。ただ電子資料は今後着実に増えていくだろうし、本を読むことと同じ感覚で電子資料を見ることが出来る道具も開発されるだろう。

20世紀からの続きとしてさらに発展していくのは“インターネット”であろう。インターネットの功績は大きい。図書館サービスをする上で障害であった距離や情報入手速度の問題をクリアしてくれた。それも図書館の規模に関わらずインターネットに接続している館すべて平等に、である。大学図書館を例に挙げるならば、図書館間の格差（蔵書数、サービス内容等）がそこに所属する研

参考文献：

- 1 『図書館雑誌』95(2)特集：私が考える21世紀の図書館
- 2 『図書館雑誌』95(1)座談会 21世紀—これからの図書館の役割（前編）

司書 吉原貴子

研究者の研究に影響を与えていた現状を打破するものとなった。そうして距離や所蔵、蔵書量などの物理的問題の無いインターネットの世界は、大容量の情報を私たちの前に提示し、検索できる便利な状況をつくってくれた。しかしその状況を真に自分のために活かしていくためには、自分が今何を探しているのかを十分に分かっていなければならないのであり、目の前にある情報を比較し判断する力が無くてはならないのである。巷では“IT”の2文字がもてはやされている。だが、技術だけが進めばそれでいいのではない。あくまでそれを使うのは人である。技術が高度化したからといって人間が高度になるわけではない。21世紀はますます情報が氾濫し、便利な環境になりながらも自分に問いかけながら忙しく情報の取捨選択を繰返していく時代となるのだろう。

21世紀は高齢社会でもある。その主役である60歳以上の人々は環境が便利になればなるほど、情報が氾濫すればするほど今まで以上に高度な知識・技術を求めて図書館を訪れるであろう。そうなれば一つの図書館が特定の利用者の要求に応えていくことはますます困難になる。「大学」「公共」などの館種を問わず“誰にでも”サービスしていく“開かれた”図書館とならざるを得なくなるだろう。もしくは個々の専門性を重視し、役割分担を行い、その上で図書館間がネットワーク化され、どこに何があるかが利用者にとって分かりやすくなり、情報提供もしてもらいやすくなっていかなければならないだろう。

21世紀の図書館は、本や雑誌や新聞やCD-ROMなどを備え、世界につながるインターネットも使い、一つの情報を複数のメディアで相対的に比較できる最大の空間としての意義をより開かれた分かりやすい状態で人々に提示していかなければならないと思う。

連載企画 1. 書評

『ケア学 越境するケアへ』 広井良典著 医学書院 2000年 (図書館所蔵予定)

助教授 小林優子

看護ケア、ケアマネージャー、ケアワーカー、ケアハウス・・・等“ケア”のつく言葉があふれている昨今、聞き慣れない「ケア学」というタイトルに出会った。著者は、「ケア学」について、『必然的にマージナル(境界的)な学問にならざるをえない。専門分化やタテワリ性が進んだ現在の学問体系では、ケア学は見えてこない。「ケアということについての全体的な探求」というものを考えていくために学問分野や制度の「垣根」を超えていく必要がある』と述べている。

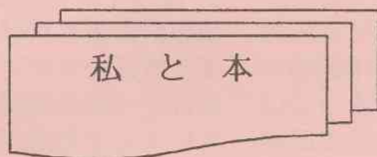
まず、ケアとは何か、そして、ケア学の必要性について述べられている。『その人の言うことを「聴く」こと、「ただそばに居ること」にもっとも深い本質がある・・・「ケア」とは、その人に「時間をあげる」ことである・・・』『ケア提供者自身が、力を与えられたり、充足感や統合感を得るということを経験している。人間にはケアしたい欲求がある。人間は「ケアする動物」である。』

そして、もともと家族や共同体の内部で行われていた「ケア」が外部化され、職業、制度となっていくという。この外部化された「ケア」につ

いて、いくつかの焦点からの考察へと続いている。医療保険と公衆衛生の統合、人間の三世代モデル、コミュニティと社会保障、ターミナルケアへの視点など、現在の日本における医療やケアに関する問題提起がなされており、興味深い内容である。さらに、医療・福祉職種の役割分担については、欧米諸国の動向を紹介しながらわが国の問題点を探っている。ここでは医師に対する看護職の独立性を高める必要性について論じている。このほか、医療保険と介護保険の関係、ケアと経済社会についても論じられている。

哲学的な考察あり、医療技術論や科学史的議論あり、社会保障や医療経済などの政策に関する考察ありの幅広い、まさに“マージナル”な著書である。読む前は、「ケア」とは「看護学」の一部であると考えていたが、読んでみて「ケア学」の広さに驚いた。方法や知識、技術の「ケア」ではなく、深く広い「ケア学」について考えることは有意義なことであろう。現在の「ケア」に関する問題を知り、看護職としての課題は何かを考える上でもおすすめの一冊である。

連載企画 2. エッセイ



本を読むという事

助手 垣内志保

生活の中で、私たちは色々な事を“読む”という機会が多いと思います。その媒体の一つである本を読むという事は、人間として生きていく以上、必ず誰もが体験する事であると思います。そこには色々な種類の本がありますが、どれを読んでも新しい発見や楽しみがあると思います。私は、そんな本が大好きです。



物心がついた時には、もう既に私のまわりには本がありました。その中でも特に好きなのは、物語であるとか、昔の文明や遺跡について書かれているものが多かったような気がします。そしてそこから、色々な事が知りたいという欲求も起こりました。だから、また本を読む、読みたいという気持ちが出てくるのではないのでしょうか。今は、本当に色々な本がありますが、「私は本が苦手だから。」と思わずに、何でも構いません、興味のある本から読んでいってみませんか。

今日では、若年者の読書離れが叫ばれています。何故、こんなにも読まれなくなったのでしょうか。一番の原因は、やはりゲームの普及だと思います。確かにゲームもおもしろいし、僕もよくします。しかし、それとおなじくらい小説を読むことは、おもしろいと思います。読まない人はたいがい、小説って字ばかりで読むと疲れるし、時間がかかってめんどくさいと言いますが、僕はそうは思わないし、たとえそう思ったとしても、それにもまして楽しめたり感動したりできるから、読書はする価値があるのだと思います。じゃあ、そこまでいうなら、一冊でもいいから読んでみようかなと思った人は、これから紹介する本をよかったら読んでみてください。題名は、グリーンマイルという作品です。これは、アメリカの作家、スティーブ・キングが書いた作品ですが、映画にもなっ

た作品なので、きっと見た人もいます。ですが、小説の方は一味違うので、そういう人でも楽しめると思います。時は1932年、舞台はアメリカ南部のコールド・マウンテン刑務所の死刑囚舎房、そして、この刑務所で今まで75回の死刑の指揮をとってきた看守主任、ポール・エッジコムがこの物語の主人公です。32年の秋に一人の黒人死刑囚、ジョン・コーフィがこの舎房にやってきたことで、この物語の歯車は動き始めますが、その後どうなるかは、読んでみてからということ。最後はきっと泣けると思います。

当時、図書なのに毎月刊行されるということによって話題になった、『グリーンマイル』(新潮文庫)全6巻は図書館で所蔵しています。
[請求記号 933.7-Ki43-1~6]

新着図書紹介

『看護のための最新医学講座』 監修：日野原重明，井村裕夫

新しくシリーズで発行される医学系図書を、順次所蔵することになりました。現在「循環器疾患」、「腎疾患と高血圧」、「痴呆」がすでに所蔵されています。

本書の特徴は、西洋医学のほかに、伝統的な東洋医学や alternative medicine (代替医療)、インフォームドコンセントを含む医療人間学、evidence-based medicine and nursing (根拠に基づいた医学と看護)にもふれられているということです。ページを開いてみると、フルカラー印刷で、イラストが豊富に掲載されています。また、欄外には専門用語や大切なポイントがまとまっており、コラム欄には逸話やまめ知識などが書かれていて、大変わかりやすくなっているという印象です。患者さん中心の看護を展開し実践していくためには、「臨床医学」の知識が欠かせません。是非活用してみてください。

<所蔵予定順>	☆ 運動器疾患	☆ 血液・造血器疾患	☆ 脳・神経系疾患
☆ 呼吸器疾患	☆ 泌尿・生殖器疾患	☆ 免疫・アレルギー疾患	☆ 婦人科疾患
☆ 消化器疾患	☆ 歯科・口腔系疾患	☆ 微生物と感染症	☆ 皮膚科疾患
☆ 産科疾患	☆ 代謝・内分泌疾患	☆ 眼科疾患	☆ 精神疾患
☆ 肝・胆・膵疾患	☆ 老人の医療	☆ 腫瘍の臨床	☆ 新生児・小児科疾患
☆ 糖尿病と合併症			☆ 耳鼻咽喉科疾患

また、AVコーナーにも新着ビデオが入りました。

『眠る男』 監督：小栗康平

モントリオール世界映画祭、ベルリン国際映画祭、他各種受賞作品です。

これは医療・看護に関するものではありませんので、勉強に疲れた時、一人でボーッと過ごしたい時に見てみてはいかがでしょうか。森があり、川があり、季節が静かに巡るという日常の営みが映し出されています。深く、美しい映像表現が見どころです。

電子ジャーナル (Online Journal) について

1. はじめに

インターネットは1990年代初めに一般的に普及し始めたと言われています。

それから10年たってインターネット上では、かつて印刷されたものでしか見られなかった雑誌などの冊子体が、電子化され公開されるようになっていきます。それらが電子ジャーナルであり、ネットワーク(回線)を通じて他のコンピュータにアクセスして閲覧できる雑誌をOnline Journalと言います。

内容は、Content (目次) 程度の公開のものから Abstract (抄録) 付きや全文閲覧可能のものまで

さまざまです。多くの場合、Contents、Abstractまでは無料で見る事ができ、最新号は冊子体で見るよりも早く利用することができます。海外の大手出版社のホームページでは自社刊行の電子ジャーナルを著者名や巻号で検索でき、ちょっとした文献データベース化されています。

図書館のホームページでも、2月から「電子ジャーナル」のコーナーを作り、無料で閲覧できるサイトを紹介しています。現在、2つのサイトを載せてあります。次にそれらの説明をしましょう。

2. Oxford Journals—Oxford University Press (OUP) 刊行の電子ジャーナル

OUPで刊行されている全電子ジャーナルが閲覧できるサイトです。学内からのみアクセス可能です。OUP刊行の電子ジャーナルには、生命科学、医学といった自然科学分野の他、経済学、法学などの人文科学分野の雑誌も含まれており、幅広く利用することができます。

まず、アルファベット順に並んでいるリストから雑誌を選びます。

各雑誌のトップページに表示されてあるものは多少違いがありますが、だいたい、キーワードや著者名で検索できる「Search for Articles」やバックナンバーを探す「Browse the Archive」、最新号「View Current Issue」のリンクが貼られています。

そこから読みたい論文を選び、「Full text」が表示されていれば全文を読むことができます。ただし、冊子体購読者しか読めないようになっている雑誌もありますので、読めない場合は各雑誌の Note (注意書き)を確認してください。

このサイトは国立情報学研究所の電子図書館事業の一貫として“試験提供”の形で行われているため、平成13年度に限り無料で閲覧ができます。

3. Online Journals—北海道大学附属図書館提供による国内外リストの一覧

北海道大学図書系職員の研究会によって作成された、電子ジャーナルの網羅的なリストです。全文情報のアクセスを保証するものではありませんが、どのような雑誌かを知ることは出来ます。中には目次の閲覧も出来るものもあります。

雑誌のタイトル中の語などを入力すると検索ができます。たとえば“Nursing”で検索すると61タイトルがヒットします。タイトルの横の「HOLD」から国内の所蔵大学図書館を知りことも出来ます。

4. 全文の表示形式

「Full text」から全文を表示できた場合にその表示形式は2通りあります。

- ・ HTML形式…通常のホームページの形式のことです。注や参考文献などへのリンクが貼られています。
- ・ PDF形式…冊子体のページのまま画像で表示されます。Acrobat Reader というソフトが必要になります。使用するパソコンに入っていない場合は、Adobe社のホームページから無料でダウンロードできます (<http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html>)。

5. 電子ジャーナルの効果的な使い方

図書館のホームページでは Free MEDLINE の紹介をしていますが、そこでは Journal 名による検索は出来ません。今回紹介した電子ジャーナルのサイトはそれを補うものと言えます。

また、目次が見られるためその雑誌を所蔵していなくても「どんな論文が載っているか」を確認することができ、目次コピーが不要になります。

キーワードや著者名から検索できる雑誌もありますので一つの文献検索データベースとしての利用もできます。

6. 利用の制限

今回紹介したサイトに限らず、また電子ジャーナルのみに限ったことではありませんが、論文の全文をハードディスクにダウンロードしたり印刷したりすることは、個人の学習・研究の目的で使う場合であり、非商業的用途に限った利用でなければなりません。また、雑誌1冊分まるごとのダウンロードや印刷も禁止されています。

編集後記

21世紀最初の図書館だよりをお届けします。こういうと格好がいいですが、果たして内容も格好のいいものになっているでしょうか？御意見・御感想は下記アドレスまで。

今年の冬は1月から大雪で悩まされ、3月になってもいつまでも積もってすっきりしませんでしたがこのごろになってようやく春らしくなってきたようです。これを書いている間に東京では桜が咲きました。いよいよ春本番。新しい年度のスタートはすっきりと始めたいものです。(Y)

tosyo@niigata-cn.ac.jp